令和4年度　学校運営協議会委員による評価書

東洋町立甲浦中学校

学校教育目標　「主体的にチャレンジし、学びを将来につなぐことができる生徒の育成」

項目	自己評価	めざす生徒像	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況（指標人数を達成：△　未達成：▽）	分析・改善策・その他	学校運営協議会委員コメント	評価
チャレンジ精神	S・A・(B)・C	主体的に挑戦し、成功や失敗を学びとして、夢に向かって努力することができる生徒	①生徒に一歩目を踏み出す勇気を与えるため、スモールステップの成功体験を積み上げさせ、常に肯定的な評価・励ましを継続して行う。 ②生徒会を中心に生徒の意見を取り入れた行事や取組を行い、達成感や次への意欲を育てる。 ③生徒に自己決定の場を与え、諦めずに取り組むきっかけをつくる。	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　全校生徒24名 ①主体的にチャレンジする気持ちを大切にしている （91.7%→95%）　※22人→23人 ②うまくいかなかった経験からの学びを大切にしている （91.7%→95%）　※22人→23人 ③将来の夢や目標に向かって努力している （87.5%→91.7%）　※21人→22人	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　回答生徒数23 ①主体的にチャレンジする気持ちを大切にしている （91.7%→100%）※22人→23人△ ②うまくいかなかった経験からの学びを大切にしている （91.7%→95.6%）※22人→22人▽ ③将来の夢や目標に向かって努力している	①②生徒会を中心にした「明るく元気な学校づくりを進める。また、生徒に一歩目を踏み出す勇気を与えるため、スモールステップの成功体験を積み上げさせ、常に肯定的な評価・励ましを継続して行う。 ③生徒に主体性を育てるとともに、キャリア教育や進路学習の一層充実を図る。	☆達成できていない課題を分析してからの取り組みが必要と思います。 ☆「失敗しても次に繋げていく力」をつけていってもらいたい。 ☆サーフィン等、地域でできる新たなチャレンジする機会を増やし、コミュニケーション力や郷土愛に繋げてほしい。	S・A・(B)・C
コミュニケーション力	S・A・(B)・C	生きた挨拶や場に応じた言葉遣いができ、『話す・聞く』を大切にできる生徒	①生徒一人ひとりに居場所が保障され、自由に自分の思いを伝え合うことのできる学級づくりを進める。 ②教職員自らの意識を高め、見本となれる言動を行う。 ③朝学活や週学活で取り組みを強化する。（例：挨拶や立ち姿） ④キャリア教育でのゲストティーチャー等を活用し、社会性を育む。 （地域学校協働本部との連携）	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　全校生徒24人 ④自分からすすんで人にあいさつしている （95.8%→100%）　※23人→24人 ⑤人の考えや発表を誠実にきいている （83.3%→91.7%）　※20人→22人 ⑥自分の考えや思いを伝えることができる （83.3%→91.7%）　※20人→22人	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　回答生徒数23 ④自分からすすんで人にあいさつしている （95.8%→86.9%）※23人→20人▽ ⑤人の考えや発表を誠実にきいている （83.3%→95.6%）※20人→22人△ ⑥自分の考えや思いを伝えることができる （83.3%→86.9%）※20人→20人▽	①生徒一人ひとりに居場所が保障され、自由に自分の思いを伝え合うことのできる学級づくりを進める。部活動も含めて、学校でも啓発を行う。 ②聞くことの重要性や人を大切にすることの大切さについて教育活動全般で取り組む。 ③授業を中心に言語活動の充実に努める。また、生徒一人ひとりが活躍する場面を意識的に設定していく。 ①②③キャリア教育でのゲストティーチャー等を活用し、社会性を育む。	☆自分から進んで挨拶ができている。 ☆先生だけでなく、学校外の人たちにも挨拶できるよう取り組みをしてもらいたい。 ☆キャリア教育でのゲストティーチャー活用は、とてもいいと思いました。	S・A・(B)・C
自尊感情	S・A・(B)・C	自分や他人を大切にでき、自分自身に誇りを持って行動できる生徒	※令和4年度重点取り組み ①生徒が互いに認め合う、褒め合う等肯定的評価を行う機会を多く設定する。（学級活動、生徒会や専門委員会の活用） ②学級や全校のリーダーを中心に集団づくりを強化する。 ③生徒指導の三機能をすべての教育活動に導入し、自己肯定感や自己有用感を育成する。	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　全校生徒24人 ⑦自分には良いところがある （75%→87.5%）　※18人→21人 ⑧人を思いやる心を大切にしている （87.5%→91.7%）　※21人→22人 ⑨自分の考えや判断を大切にして行動している （95.8%→100%）　※23人→24人	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　回答生徒数23 ⑦自分には良いところがある （75%→73.9%）※18人→17人▽ ⑧人を思いやる心を大切にしている （87.5%→95.6%）※21人→22人△ ⑨自分の考えや判断を大切にして行動している （95.8%→100%）※23人→23人▽	※令和5年度重点取り組み（継続） ①②③生徒指導の三機能をすべての教育活動に導入し、自己肯定感や自己有用感を育成する。 積極的な教職員によるボイスシャワーや生徒の活躍を可視化することを継続して取り組む。 生徒が互いに認め合う、褒め合う等肯定的評価を行う機会を多く設定する。 特に授業の中で、意識的に生徒の発表を教師が繋げたり、生徒同士で評価し合う場面を設定するよう工夫する。	☆改善策に準じて達成できるように取り組みましょう。 ☆自尊感情を育むには「認めるところは認め、正すべきところは正すこと」が大切なため、生徒同士で評価し合う場面が設定される工夫はとても必要と感じます。 ☆自分に自信が持てるよう、「チャレンジ精神・コミュニケーション力・学力向上」の取り組みを通じて成長していってもらいたい。	S・A・(B)・C
郷土愛	S・A・(B)・C	地域愛をもち、甲浦の良さを誇り、地域に貢献できる生徒	①地域行事への協力体制をつくる。 ②コロナ禍で停滞していた地域学校協働本部の協力を得て、郷土のことを取り入れた授業や体験を行う。 ③総合的な学習の時間（SDGsやキャリア学習等）の取組を充実させ、地域の良さや課題を学ぶ場を設定する。	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　全校生徒24人 ⑩自分の住んでいる地域が好きである （75%→87.5%）　※18人→21人 ⑪地域の魅力を伝えることができる （75%→87.5%）　※18人→21人 ⑫地域のために貢献できる人間になりたい （66.7%→83.3%）　※16人→20人	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　回答生徒数23 ⑩自分の住んでいる地域が好きである （75%→78.2%）※18人→18人▽ ⑪地域の魅力を伝えることができる （75%→69.5%）※18人→16人▽ ⑫地域のために貢献できる人間になりたい （66.7%→78.2%）※16人→18人▽	①地域行事への協力体制をつくる。 ②コロナ禍で停滞していた地域学校協働本部の協力を得て、郷土のことを取り入れた授業や体験を行う。 ③総合的な学習の時間（SDGsやキャリア学習等）や生徒会活動（今年度の「服のチカラ」）の取組を充実させ、地域の良さや課題を学ぶ場を設定する。	☆改善策に準じて達成できるように取り組みましょう。 ☆コロナ禍で体験する行事等がないのでしかたない。 ☆子どもたちに地域に興味を持ってもらえるような活動を今後、考えていきたい。	S・A・(B)・C
学力向上	S・A・(B)・C	主体的・対話的に学び、学習した内容を活用して、問題解決することができる生徒	※令和4年度重点取り組み ①教員自らが授業力を向上させるため、自己研修や集合研修に積極的に参加し、「学び続ける教師集団」を構築する。 ②甲浦中版　学習スタンダードを徹底する。 ③『めあて』を効果的に提示し、『まとめ』を共有させる。また、振り返りを活用し、指導改善を図る。	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　全校生徒24人 ⑬授業では課題解決に向けて、自分から積極的に取り組めている （75%→83.3%）　※18人→20人 ⑭話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている （83.3%→91.7%）　※20人→22人 ⑮平日、家庭学習に90分以上取り組んでいる	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　回答生徒数23 ⑬授業では課題解決に向けて、自分から積極的に取り組めている （75%→86.9%）※18人→20人△ ⑭話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている （83.3%→86.9%）※20人→20人▽ ⑮平日、家庭学習に90分以上取り組んでいる （58.3%→73.9%）※14人→17人▽	※令和5年度重点取り組み（継続） ①教員自らが授業力向上やアップデートを図るため、自己研修や集合研修に積極的に参加し、「学び続ける教師集団」を構築する。 ②甲浦中版学習スタンダードを更に徹底する。 ③単元計画を充実し、「付けたい力」を明確にして授業づくりを行う。また、振り返りを活用し、指導改善を図る。	☆改善策に準じて達成できるように取り組みましょう。 ☆家庭でのメディアへの接触時間が多いということは、保護者にも問題があると思う。学校だけが頑張っても改善は難しいのではないでしょうか。 ☆学校・家庭・地域が連携した取り組みを考え、学力向上に努めていただければ。	S・A・(B)・C
生活習慣	S・A・(B)・C	時間やルールが守れ、礼儀を大切にし、当たり前のことが当たり前にできる生徒	①保健便りや学校便りを活用し、家庭の協力が得られる啓発活動を研究していく。 ②生活7カ条を活用し、自分や集団の生活を絶えず振り返る機会や価値付け、意味づけを行い、『当たり前』を意識させる。（しつけも必要） ③生徒の見本となるような言動を心がける。	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　全校生徒24人 ⑯毎日朝食を食べている （100%→100%）　※24人→24人 ⑰約束した時間や決められたルールを守っている （87.5%→100%）　※21人→24人 ⑱当たり前のことが当たり前にできている （あいさつや掃除等） （95.8%→100%）　※23人→24人	●（めざす生徒像　アンケート　生徒版） （　）は肯定的意見割合　回答生徒数23 ⑯毎日朝食を食べている （100%→95.8%）※24人→23人▽ ⑰約束した時間や決められたルールを守っている （87.5%→91.7%）※21人→22人▽ ⑱当たり前のことが当たり前にできている （あいさつや掃除等） （95.8%→87.5%）※23人→21人▽	①保健便りや学校便りを活用し、家庭の協力が得られる啓発活動を研究していく。 ②「東洋っ子生活リズム」を活用し、自分や集団の生活を絶えず振り返る機会や価値付け、意味づけを行い、『当たり前』を意識させる。 ※しつけも必要 規範意識等は、学級や学校として集団 づくりを充実し、また、生徒の自己指導能力向上に取り組む。	☆改善策に準じて達成できるように取り組みましょう。 ☆家庭でのメディアへの接触時間が多いということは、保護者にも問題があると思う。学校だけが頑張っても改善は難しいのではないでしょうか。 ☆保護者や地域向けの講演等で生活習慣向上に家庭や地域が学ぶこともあれば良いと思います。	S・A・(B)・C